



カクマ難民キャンプ外来病棟ワークに参加して!

96年8月3日～31日の28日間、私たち7人のボランティアはカクマ難民キャンプを訪れました。この目的はキャンプ内の病院に新たに外来病棟を建設するに際して手伝いをする事、難民の人達と交流を深めるためです。キャンプ滞在中は、主に午前中は病院にて作業の手伝い、午後は、キャンプ内の様々な活動の見学と参加、というスケジュールでした。

病棟建設には時間がかかるため、一カ月の間に完成を見ることはできませんでした。この病棟建設にあたっては、皆様の募金が活用されました。皆様の個々の協力によってこの病棟が建設されたというだけでもです。カクマの人達は日本人が、彼等のために協力することを大変歓迎し、喜んで受け入れてくれました。中には無償で手伝ってくれた難民の人もいます。この場を借りて皆様のご好意に深く感謝したいと思います。そして、一生の財産となるこの経験の機会を与えてくださったことも重ねて感謝します。

ご協力有難うございました。

工藤哲 吉田恵子 勝部創太郎
山本律子 水原一郎 中島佳雄 林佐喜代



昨年のワークキャンプで建設された幼稚園の前で 林さん



カクマ難民キャンプの幼稚園で



カクマ難民キャンプの幼稚園で

カクマの人々が教えてくれたもの

林 佐喜代

今、カクマから帰って来て、改めてそこでの生活を思い起こしてみると、人の温かさに触れて自分が素直になれたような気がします。

彼等は、難民もケニア人も笑顔で私たちを迎えてくれて、私たちと生活と時間を共有できることを喜んでくれました。友達の一人が私たち

に話してくれた中に、「私はここに何も持たずに来た。しかし、今は希望や時計などいろいろなものを持っている。これは全て助けてほしいという気持ちのある人のお陰である。明日のことは分からない。けれど私もほかの人々を助けることができるよう願っているし、絶対そう

するであろう」という言葉があった。彼は本当に友達を大切に思っていて彼等に感謝すると同時に彼等の幸せを願っていました。

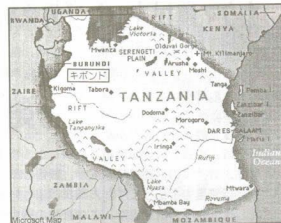
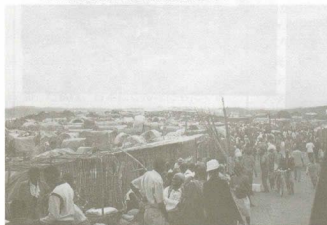
今回キャンプに行つて、私は自分の勉強不足を痛感させられました。キャンプにいる人々と比較したら、私の周りには、何でもそろっていて、あまりにせつかな環境にいるのに、それに甘んじていたような気がします。

ルワンダ、ブルンジ難民への古着支援が役立っています!

今年は、皆様のご協力により全国から段ボール箱755個の古着が横浜の倉庫に送られて来ました。20フィートコンテナ1台には入りきれなかったため、2台にして、さらに、中古の四駆駆動車2台を40フィートコンテナに乗せて、7月にタンザニアのダルエスサラムに送りました。今回は税関で少し手間取りましたが、11月1日、タンザニアの私たちの協力団体であるタンガニカ・クリスチャン難民サービス(LWS,タンザニア)の集積所に届きました。さっそく、古着195箱をキボンドの難民キャンプに支給する手配を取ったとのことです。

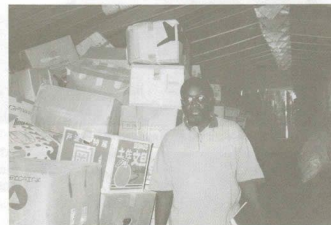
最近、新聞で報道されていますように、ザイール難民キャンプをめぐる民族対立のため、安全なタンザニアに難民が流れ、キボンドキャンプには、毎日、500名のブルンジ難民が、きのみきのまま連れて来ています。皆様からの古着は、ちょうど必要な時に到着したのです。

ザイールの難民キャンプ
100万人の難民が、現在危機的状況にある



過去3回は、古着と乾パン(2回)をケニアのカクマ難民キャンプに届けてきましたが、人道援助の古着にも税金をかける、かかないでケニア政府税関当局との交渉が大変で、今年からケニアではなくタンザニアに送っています。

昨年7月に横浜を出た荷物は、ケニアの港に留められ、やっと今年の4月にカクマに到着しました。8月には、まだ大切にカクマの倉庫に保管されていました。カクマの倉庫の古着とキャンプマネージャーのザカさん



カンボジア自立支援 牛の支給と村の銀行

農耕用に「牛の支給」を始めて3年になります。最近、支援の申込が少なくなっていますが、「牛」、一頭が2万円という、はっきりした形の支援を皆さんがよく理解してくださって、魅力的なプロジェクトになっています。

問題は、カンボジアでの協力団体が、もともと国連とカンボジア政府機関との関係で開始した牛のプロジェクトを見直し、村レベルの農村開発へと方針を変更したことで、私たちのパートナーをどうするかということがあります。また、私たちの側も、しっかりした担当がいればもっとアピールできると思っています。我は、と思う方はいらしゃいませんか!

また、来春には現地訪問も計画しています。関心あるかたはご連絡ください。

